

1 2022年度CSOラーニング制度が始まりました！

大学生・大学院生を環境問題に取り組むNPO／NGOにインターン派遣する、CSOラーニング制度が今年も始まりました。2022年度は4地区（関東・関西・愛知・宮城）、33の団体に55名の学生が活動をスタートさせています。



2022年度キックオフミーティングの様子

この2年間は新型コロナウイルスの影響でオンライン中心の活動となっていた本制度ですが、今年は以前のように対面での集まりが再開できるのではと期待しています。

オンライン・オフライン双方の良さを生かしながら、参加学生にとってコロナ禍での貴重な学びの場・仲間づくりの場となるよう、事務局一同、全力でサポートして参ります。

※インターン生に支払われる奨学金は、SOMPOグループ社員の寄付金で運営されている、「SOMPOちきゅう倶楽部社会貢献ファンド」の一部を活用しています。



2021年度生交流会の様子

2 日本・インドネシアの参加学生インタビュー

本制度は2019年からインドネシアでも実施しており、今年も日本より一足早く、2月から20名の学生が活動をしています。今回は両国の参加学生に同じ内容でインタビューを行ってみました。それぞれの関心の違いや共通点などがわかる興味深い内容となっていますので、ぜひ一読ください。

Question

- ①. 自己紹介をお願いします。
- ②. いま一番関心のある環境問題は何ですか？
- ③. インターン先に期待していることを教えてください！

01 派遣先団体：森づくりフォーラム 松田 森樹 さん



A① 大学では「もののけ姫」の主人公・アシタカの言葉である「森とタタラ場、双方生きる道はないのか？」を自分自身の大きな問いとして、森林と人間社会の関わりについての勉強をしています。

A② 自然資源の過剰利用を背景とした生物多様性の喪失・農林業における野生鳥獣被害に関心があります。

A③ 机上では学ぶことのできない自然の中での実践の方法を学ぶとともに、自然と人の関わりを感じ、考える機会を持ちたいと思っています。

02 派遣先団体：大阪自然環境保全協会 平井 鈴音 さん



A① 大学では小学生の頃から関心のある環境学を専攻しています。現在はSDGs関係の学生団体「世界環境学生サミット」で代表を務めたり「We Do Kyoto! ユースサポーター」として環境活動を行ったりしています。本制度に応募したのは、今までの学びや活動を社会人の方々によるご指導の下でより磨きたいと思ったためです。

A② 絶滅危惧植物に関心があります。中学生の時にシダ植物やコケ植物に魅了されたのですが、理科の教科書の「シダ植物

などの絶滅危惧種が増えている」という記述を読んだ瞬間の強いショックは今でも忘れられません。

A③ 学生生活ではなかなか経験のできない”現場”での取り組みを通して、より実践的な学びが得られることを楽しみにしています。そして、インターン修了後もその貴重な学びや繋がりを自身の進路先にも活かしていきたいです。

03 派遣先団体：Burung Indonesia Desita Dyah さん



A① 国立ボゴール農科大学で森林資源保全とエコツーリズムを専攻しています。Burung Indonesia（バードライフ・インターナショナル・インドネシア）というNGOでインターンをしており、主にデザイン&コミュニケーション部門をサポートしています。

A② 野生動物に関する事です。生態系保全に情熱を持っており、写真などを通じて保全の重要性を伝えていきたいと考えています。生物多様性保全の重要性について市民の意識を高めるために、メディアの役割は非常に大きいと感じています。

A③ 環境保全の専門家の方々から多くの知識を得られると期待しています。野生動物保全の現場から、その重要性を伝えるための手法を学びたいと考えています。



ジャカルタ近郊で子どもたちに廃棄物教育や鳥に関する保護教育活動を実施

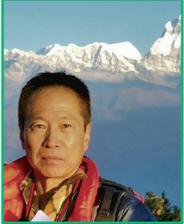
Question

- ①. ラーニング生はどのような業務をしていますか？または、どのような業務をする予定ですか？
- ②. ラーニング生にはどのような期待をしていますか？
- ③. CSOラーニング制度についてお考えをお聞かせください。

01

公益社団法人大阪自然環境保全協会

岡 秀郎 様



A①

生物多様性・自然環境の保護分野で、学生さんの意思を活かすことを前提に、CSOのミッションとマッチする取組みを双方で創出することになっています。最近では、生物多様性主流化の調査・企画・フォーラム開催や市民の農空間保全の仕組みづくりなどを行いました。

A②

学生時代は、より自由に意思を発散し、新たな知識・スキルを吸収し、それらをもとに、様々な事象にとらわれず活動を創出できる時期です。しかし、環境CSOはおおむね世代が上で、学生さんのような発想や思考などを具現化しにくいというギャップがあります。そうしたCSOやそのメンバーなどに、学生さんの新鮮でより柔軟な、「自由性」高いエネルギーを与えてもらうことは貴重な機会です。より自由に、活動していただきたいと思います。

A③

制度には2001年度から参加させていただき、当協会も貴重な成果をいただけてきました。修了生には、今も活動に関わったり別の環境主体でも交流したりしている方がいます。そこで考えてみますと、全体で1000人以上にも上る修了生がおられるため、(MLはありますが) そのつながり・連携の機能・仕組みのようなものが出来ないかと以前から思っています。修了生から有志を募るなどで、少しずつプラットフォームができればと考えています。

02

認定NPO法人オーシャンファミリー

海野 桂子 様



A①

ラーニング生の皆様は、幼児からシニアまでを参加対象とした、海洋を含む自然体験活動の指導サポート、安全管理全般、活動記録と報告作成などを業務として行います。左記業務を行うために、事前の指導者研修で指導におけるスキル、安全管理等を学びますので、安心して活動に参加できます。

A②

当団体は、原体験は、子ども達にとって一生の糧となり、海や自然への興味、理解、憧憬へとつながり、環境保護、保全への意識・意欲へと発展していくと信じて活動を行っています。ラーニング生の皆様も、まずは自らが楽しいと思う体験をされることが大切です。何事にも興味を持ち、楽しく、一緒に指導ノウハウや安全管理を学んでいくことを期待しています。当団体での経験が、各人の今後の人生にも役立つものと信じます。

A③

とても良い制度だと思います。団体としましては、若いエネルギーで活動を盛り立ててもらえることに期待しています。研修生の皆様においては、就職前に環境団体の現場で学ぶ機会があることにより、自らへの気づきや社会での役割を考えるきっかけになると思います。受け入れ団体の業務も多種多様です。研修先は1か所になりますが、ラーニング生同志の交流を通して、情報交換できるところも素晴らしいと思います。

「脱炭素チャレンジカップ2022」に協賛しました！

環境財団では、脱炭素チャレンジカップ（主催：地球温暖化防止全国ネット）に協賛しています。この度、大牟田市立明治小学校に対して最優秀わくわく未来賞を授与しました。明治小学校では、「大牟田素敵タウンプロジェクト・美しいふるさとを未来へ残そう」として、緑のカーテン作り、ソーラークッキング、川を守る活動等、学年ごとにテーマを決めて体験的な活動を通してエネルギー・環境教育に取り組んでいます。



ソーラークッキング



緑のカーテン

〈明治小学校主幹教諭 杉本朱美先生のコメント〉

この度は、「SOMPO環境財団最優秀わくわく未来賞」に選出いただき、誠にありがとうございました。本校では、全校児童が各学年の発達段階に応じ、脱炭素社会実現を目指し継続して取組を行っています。この取組について高く評価していただき、大変光栄に思います。今後も6年間を通して、自分事として意欲的に学び続ける子供を育てていきたいと考えています。

新事務局長からのご挨拶



4月1日付けでSOMPO環境財団の事務局長に就任をしました。

激甚化する自然災害や気象の変化など気候変動をはじめとした地球をとりまく環境の変化を肌で感じるが多くなり、またグローバルな視点でもウクライナの問題からエネルギーや食料問題など社会課題が複雑化、多様化をしており、地球規模で我々の生活を脅かす危機となっています。当財団の環境教育の振興等の事業を通じて地球環境の保全に取り組んでいきたいと思っておりますので、ご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

事務局長 鈴木 順子